

2021年1月30日(土) 13時30分開会 教育会館4Fにて ZOOMあり

静岡県評女性部 初春のつどい
川村浩一講演会 無料

フランス・ドイツの生活から感じたこと

～働き方・子育て・教育と民主主義～

13:00 に受付・開場 (オンライン参加者は 13:00~13:20 に入室してください。)

恒例の美味しいパンとシュークリーム(シューマン)もあります。お持ち帰りもできます。

13:30 開会 (閉会は 15:30)



①会場参加の場合

単産ごとまとめて参加者名簿を出してください。個人での申し込みは県評又はお知り合いまで。

②オンライン参加の場合

単産でまとめて申し込みの場合は個人アドレスを明記してください。複数で視聴する場合は代表者のメールアドレスを書いてください。個人での申し込みは県評にメールで申し込んで下さい。(その際は所属や初春のつどいをどのようにして知ったのかなどお書きください。)

✉ kenpyo@mail.wbs.ne.jp FAX 054-286-7973

申込者には ZOOM の URL を送ります。

参加は女性部組合員に限りません。一般、学生さんも大歓迎です。申し込みは1月26日(火)まで

定年間近、日本の会社員から転身してフランスの大学で教鞭を取り、その後ドイツの製薬会社で働き、定年を迎え、7年後帰国した日本で浦島太郎のような違和感?川村さんはその違和感の正体と闘いながら今日も発信する。

HP: <https://ura426.jimdofree.com>

会社ではボスも社員も対等に会話する。形式的な報告書を出すという習慣がないので、研究に集中できる職場環境で、日本で感じたストレスが一切なかった。子どもは小学校ではまず自分が持っている権利を教わり急に大人びる。子どもも権利を持った主体として遇される。日常でも政治の話題は豊富。政治が身近なものとして語られる。

今職場や家庭で生きづらいと感じているあなたの生きづらさの正体が、川村さんのお話を聞いてわかるかも知れません。もっと楽しい日常を取り戻すためのヒントが聴けるかもしれません。どうぞふるってご参加ください。

2021初春のつどいで、ともに学びましょう

新型コロナウイルスの流行への対応で2020年は、集会等人が多く集まる会は軒並み中止や延期に追い込まれました。そんな中で、派遣労働やエッセンシャルワーク従事者が多い女性労働者は、解雇や休業により、経済的な困難を背負ったり、新型コロナウイルスへの感染におびえながら働くことを余儀なくされたりしています。労働組合のない職場で働いてきた女性たちは助けを呼ぶこともできず、自殺に追い込まれる人が激増しています。（自殺者の数も10月は去年と同じ月に比べ男性が21.7%増、女性が82.8%増と、女性が特に増えています。厚生労働省まとめ）この過大なる困難の前に弱者を放置する菅政権。「国会を開け。」「予備費を国民生活の救済に充てる。」の声を大きくしていかなければなりません。

一方、新型コロナ禍への対応を通して、SNSやオンライン企画を通じた新たなつながりが広がったり、都市に集中しない地方暮らしを志向する考え方が生まれたりし、これまでの新自由主義とはちがう未来を描き始めている機運を感じます。新進気鋭の経済思想家・斎藤幸平さんは「ものがあふれ、もはや投資先がなくなった資本主義はその目的を十分果たしている。もう、資本家は退場するときだ。経済成長しなくても持続可能な公平社会を実現できる。」と言い、「脱成長コミュニティ」を提唱しています。環境を守りながら公平な社会を築けると言っているのです。すでに一部の地域では太陽光によるエネルギーの地産地消が実践されています。気候が温暖でどんな作物も育てられ海の幸も山の幸も豊かで、水力も風力も使える静岡県ならかなりの地産地消が実現できるはずです。そして今とはちがう働き方が生まれるはずです。

今年の講師・川村浩一さんからは、一人一人の人権が大切にされ弱者を支える施策が当たり前のように行われているフランスやドイツの暮らし、労働、教育の姿をレポートしていただきます。日本のよさを感じつつも、とても違和感をもっている川村さんから、これからの日本を考えるヒントをたくさんいただけたと思います。

オンライン併用の会です。

会場参加者には美味しいパンやシューマンのシュークリームを用意しています。

オンライン参加者も美味しいお話を聴き、質問や対話ができます。

こぞってご参加下さい。若手組合員、学生さん、一般の方も大歓迎です。

静岡県評女性部長・増田敦子